

市民が集まり、憩い、楽しめる緑豊かな場所にいたしましょう



# 森の中の高知駅



高知を愛する皆様へ (29年12月号)

平成29年12月1日

もう師走ですね。何かとご多用の時節と思いますが、宜しく願い申し上げます。  
さて、今月の活動日は次の通りです。

12月17日(日)

9:00~11:00

冬は雑草も生えにくいので、幸いあまり手がかかりません。高知駅南口電停脇花壇「みんなの庭」(写真)のほか、北口駐輪場まわりの植栽も手入れしたいと思います。

14:30~15:30

中央公園前の帯屋町筋でいつものチラン配りと葛岡さんによるギターライブを行います。  
なお、1月の共同活動は17日(日)、2月は18日(日)の予定です。

先月のトピックス

○11月12日(日)、

午前：南口の「みんなの庭」にパンジー、ビオラなど冬～春花を160株植え付けました(写真右)。これからの生長が楽しみです。これに先立つ9日に、前川種苗さんのお力をお借りして枯れ花・雑草などを取り除いて土起こしと施肥を行ってありました。



午後：帯屋町のギターライブも「プロはだし」と好評続行中です。(写真右下)



○新しい植樹計画

北口ロータリー北側の草地に新たに木を植えることについて、高知市(地権者)との話し合いを進めております。トサミズキ、ヒメシャラ、イロハモミジなど、土地に合った木を検討中。進展状況は追ってお知らせします。

(次ページもご覧ください。)

駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え(花苗持ち寄り、勤労奉仕、ご寄付など)をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥ 幹事連絡先：〒780-0042 高知市洞ヶ島町1-11

中田昌志 携帯電話：090-8849-3651 E-mail：[m.nakata@ak.wakwak.com](mailto:m.nakata@ak.wakwak.com)

公文敏雄 携帯電話：090-7016-3743 E-mail：[kumont2@yahoo.co.jp](mailto:kumont2@yahoo.co.jp)

ホームページ：<http://mori-kochi-ekijimdo.com/>

取引銀行：四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 代表中田昌志」名義 普通 0709695



## 「緑のまちづくり」を考える



### (17) まだ「グレイ・インフラ」作るの？

#### — 世界の潮流は「グリーン・インフラ」

今：日本橋川の上は高速

昔：お江戸日本橋（北斎）

「グレイ・インフラ」とは、道路、建物、橋、ダム、堤防をはじめ、もっぱら灰色のコンクリートで固められた、旧来型の社会基盤施設のことです。

「グリーン・インフラ」は、機能追求一辺倒ではなく、自然環境・景観、人々の暮らし、歴史など、その場所の風土を活かした開発によって地域を活性化し、ひいては生活・地球環境の保全につなげようとするもので、欧州を起点に世界に拡がりつつあります。

実は、この「用（機能）と美の調和」、「人間と自然の共生」といったグリーンな考え方は、古くから日本に在ったもので、西洋が東洋の知恵に学んだものとする言えます。残念なことに、＜効率・効用をひたすら追っかけ、役に立たないもの（お金にならないもの）は切り捨てる＞という西洋物質文明が明治以降我が国に入り込み、戦後の高度成長・バブル期にその極みに達しました。近年跡を絶たない会社の不祥事や現場での心の病・自殺なども、そんな風潮の結末ではないでしょうか。

「やり過ぎ、行き過ぎ」への反省に立った、グリーン・インフラ事業の具体例は「お知らせ」過去号でいくつかご紹介してきました。「命が蘇った里川—自然再生工法による上西郷川護岸整備工事＝福岡県福津市」（29年4月号）、「無為自然・空白のススめ伊予松山城ふもとの広場」（同7月号）、「逆開発でアスファルトの駅前を森に戻す—千葉小湊鉄道\*の勇断」（同8月号）などはいずれも革新的な発想で自然の回復と地域活性化を目指したものです。

「このごろ都で流行るもの—屋上庭園」（27年9月号）には続きがあります。今年4月に竣工した銀座最大級の13階建商業施設「ギンザシックス」の本格的屋上庭園（写真下）は、買い物客だけでなく、屋上目当てのツアーバス観光客で賑わっています。



これが屋上？芝生ゾーン



夏は水遊び—水盤ゾーン



買い物で疲れたら

8月号で触れた、東京日本橋を蔽う首都高速道路（写真上左）を取り外して地下に移す事業に関しては、「首都高日本橋地下化検討会」が発足、11月に第1回会合が開かれました。江戸時代の景観（写真上右）を少しでも取り戻そうとするグリーンな試みです。

.....

### 「維新の高知」は名ばかり？

9月30日NHKテレビ放映の「ブラタモリ高知—龍馬を生んだ街」で、埋め立てられ昔の賑わいを偲べるのは古絵図だけという堀川界隈が紹介され、淋しい思いがいたしました。驚いたことに、僅かに残った新堀川もフタをしてコンクリートの自動車道路にする計画のようです。

落ち着ける、歴史・古里を実感できるグリーンな空間作りに向け、世の中は大きく舵を切っています。人口減少・空洞化・過疎化が忍び寄る中、お城周り然り、桂浜・浦戸湾も然り、時代遅れの「グレイ・インフラ」事業を惰性で続ける街に、明るい未来が描けるでしょうか？